フィードバックを与える人への好意が内発的動機づけに与える影響

長岡　穂奈美

我々は日常生活において、褒められたり、叱られたりという風に、言語的フィードバックを受けることもあれば、与えることもある。褒めのような正のフィードバックは受け手の内発的動機づけを高め、叱責のような負のフィードバックは受け手の内発的動機づけを低下させるという結果が報告されるなど、フィードバックの性質に関する研究は多い。しかし、実生活においては、同じフィードバックであっても、誰からフィードバックを受けるかによって、やる気になることもあれば、やる気が低下することもある。

本研究では、フィードバックを与える者と与えられる者の関係性によって、有能感と課題に対する内発的動機づけがどのように変化するのかを調べることを目的とした。被験者は大阪大学に所属する学生 28 名であり、サクラと会話をして正のフィードバックを受ける好意-正のフィードバック条件、サクラと会話をして負のフィードバックを受ける好意-負のフィードバック条件、計算課題を解いてサクラから正のフィードバックを受ける非好意-正のフィードバック条件、計算課題を解いてサクラから負のフィードバックを受ける非好意-負のフィードバック条件の 4 条件に、無作為に 7 名ずつ割り当てられた。実験課題にはラッキーパズルを使用した。ラッキーパズルは 7 つの切片で構成されるパズルであり、被験者には 10 分以内にシルエットと同じ形を作るよう求めた。さらに練習課題後と本課題後に課題に対する質問紙に回答するよう求めた。課題に対する印象を測る 12 項目に対して、7 段階スケールで回答してもらった。

その結果、正のフィードバックを与えられた被験者と負のフィードバックを与えられた被験者とを比べたところ、有能感を示す質問項目にフィードバックの効果がみられた。すなわち、正のフィードバックを与えられた被験者は、負のフィードバックを与えられた被験者よりも有能感を高く感じていた。有能さへの欲求を測る質問項目は 2 項目中 1 項目でフィードバックの効果がみられた。内発的動機づけを測る質問項目では 5 項目中 1 項目でフィードバックの効果がみられた。このことから仮説（1）正のフィードバックを与えられた被験者は負のフィードバックを与えられた被験者よりも、課題に対する内発的動機づけおよび有能感が高い、は部分的に支持された。また、好意をもつ相手から負のフィードバックを与えられた被験者と、好意をもたない相手から負フィードバックを受けた被験者とを比べたところ、有能感と有能さへの欲求、および内発的動機づけに関する質問項目で、好意度の効果はみられなかった。以上をふまえて考えると仮説（2）好意をもつ相手から負のフィードバックを受けた被験者は、フィードバックを与える相手が応援してくれていると認知するので有能感が高くなり、好意を持たない相手から負のフィードバックを受けた被験者よりも内発的動機づけが高くなる、は支持されなかった。さらに内発的動機づけに関して、いずれの質問項目においても好意度とフィードバックの交互作用はみられなかった。このことから仮説（3）好意をもつ相手から正のフィードバックを与えられた被験者は、好意をもつ相手から負のフィードバックを受けた場合よりも内発的動機づけが高く、好意をもたない相手から正のフィードバックを与えられた被験者は、好意をもたない相手から負のフィードバックを受けた被験者よりも内発的動機づけが高くなる、ゆえに好意－正のフィードバック条件、好意－負のフィードバック条件、非好意－正のフィードバック、非好意－負のフィードバック、の順に内発的動機づけが高くなる、は支持されなかった。

本研究結果から仮説（2）と仮説（3）が支持されなかったことは、明らかな仮説の棄却を意味するということではない。今後の実験で、適切な実験課題、手続きが用いられることで支持される可能性はまだ残されているといえよう。（基礎心理学）